



第104回 鷗外忌、献花式・座談会に参加して ～令和7年7月9日(水) 猛暑日 禅林寺にて～



献花式の様子



座談会の様子

【第425号】
令和7年8月15日

【はじめに】

森鷗外記念会主催の鷗外忌・献花式(14:00～)、座談会(15:00～)に訪れたのは、コロナウイルスの影響もあって、ながらものご無沙汰でした。今迄、決まって参加されておられました、森鷗外記念会顧問・山崎一穎先生の姿はなく(令和6年9月14日ご逝去)寂しい限りでした。先生は、『森鷗外と千住』の関わりにおいて、種々様々な講演を通して森鷗外、第二の故郷、【足立区・千住】を長きに亘り、ご指導・ご鞭撻を賜り啓蒙活動に、ご尽力下さいました先生の一人でした。そして、その寂寞した献花式、座談会の会場を和ませて下さいましたのが、今年、4月1日付にて、森鷗外記念館館長(津和野町)に就任なさいました、須田喜代次先生(森鷗外記念会会長・大妻女子大学名誉教授)、小堀鷗一郎先生(医学博士、元国際医療研究センター医院長、現在民間病院の在宅医、鷗外のお孫様)他、大勢の参加者でした。

進行司会は、常任理事・事務局長の倉本幸弘先生でした。

【献花式の様子】

猛暑にも拘らず、献花式に訪れた大勢の鷗外関係者や鷗外作品ファンが行列して待つなか、森家・代理の小堀鷗一郎先生の献

花を皮切りに、順番に献花し、木村繁先生グループの姿もありました。終わってみれば、30分余りも要する程、献花する参列者で賑わっていました。

【座談会の様子】

須田喜代次会長の挨拶に始まり、全員が、お話をされましたが、特に、印象に残りましたのが、小堀鷗一郎先生でした。先生は、生きがいある医療を求めて、民間病院の訪問診療医として、多くの患者さんを見ておられるとの事でした。鷗外の小説『カズイスタチカ』にある一部分を引用しますが、「翁(鷗外の父・静男)は、病人を見てゐる間は、全幅の精神を以って病人を見てゐる。

(中略)父(静男)は、つまらない日常の事にも全幅の精神を傾注していることに気が附いた」。以下省略しますが、小堀先生は祖父(鷗外)、曾祖父(静男)の生き方を尊敬しているようでした。会場には、木村繁先生他3名と私も加わり、橘井堂医院の模型を使って、森鷗外の家族が住んだ【足立区・千住】を宣伝してきました。参加してよかったと思った次第です。

帰り際に一言、倉本幸弘先生より、ご提案がありました。

「何か一緒にやりましょうよ」と。言われ一瞬、戸惑いながら座談会、会場を後にしました。
<足立史談会 幹事 伊藤博>



学童疎開展が開かれました

8月5日(火)～8日(金)、区役所アトリウムで戦争の悲劇を繰り返さないという想いを込めて学童疎開展が今年も開催されました。ここに私が写っているのよと話してくれたAさんは毎年ここに来ているのよと話してくれました。

